



答した。こうした意見をえ、トンネル案より橋梁比較的優位と評価した。橋梁案は、航路幅約1キ以上の支間長が適用でつり橋とする。今後は、などの詳細な調査を実施高度で広範な専門的知見り検討を深める必要があ

2019年3月12日 建設通信新聞

こめた。揺籠手法では、ゼネコンやと23社を対象にヒた結果、事業リス共が適切に負担すF1的手法は導入体的な検討のためや構造形式、事業報の提示が必要だ「この2年間でが進み、一定の方性を出すことができた」と



受賞者の森山さん(写真中央)

デザインレビュー2019が8、9の両日、福岡市のアイランドシティ中央公園ぐりんぐりんで開かれた。予選を勝ち抜いた8作品による決勝審査では、森山広崇さん(滋賀県立大)の

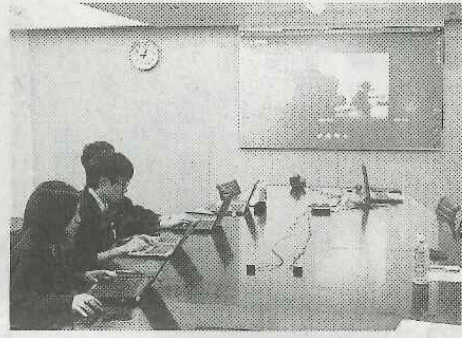
最優秀に森山さん(滋賀県立大)の『潜』

「潜」が最優秀賞に輝いた。デザインレビューは、建築を学ぶ学生の作品をプロの建築家らが講評することで、参加者と一緒にデザインの可能性やリアリティーについて広く意見交換する。24回目を迎えたことしのテーマは「繁花」。主催は同学生実行委員会。日本建築家協会(JIA)九州支部が共催し、総合資格学院が特別協賛した。クリティークは光嶋裕介、島田陽、竹山聖、土居義岳、藤村龍至の各氏が務め、司会を田中智之氏が担当した。ことしは全国から228点の応募登録があり、予選審査で本選進出67作品を選考。ポスター

デザインレビュー2019

セッションで決勝進出8作品を選び、決勝は学生自らのプレゼンテーションとクリティークによる質疑応答形式で進められた。森山さんの作品は、長野県北部の戸隠を舞台に、自然と関係づけたフォリーを建て、フォリーを巡ることで本質への気づきをもたらしつつというもの。優秀賞には鈴木遼太さん(明治大)の「たとえは基準線にかさぶたを」、中家優さん(愛知工業大)の「輪中建築」が選ばれた。講評では土居氏が「前例主義になっっていないか問い、新しい時代を考えたデザインレビューにしてほしい」などと述べた。

- 閉会式では、川津悠嗣JIA九州支部長が「今回の議論が皆さんの今後の建築人生に大きな価値となることを願っている」と述べた。
- クリティーク賞、JIA卒業設計選奨(全国卒業設計コンクール九州地区予選通過者)の受賞者は次のとおり(敬称略)。
- 〈クリティーク賞〉
 - ▽光嶋賞 石橋佑季(九州大)▽島田賞 小澤成美(九州産業大)▽竹山賞 伊藤京子(慶応大)▽土居賞 市川和樹(名城大)▽藤村賞 佐塚有希(明治大)
- 〈JIA卒業設計選奨〉
 - ▽戸上夏希(九州産業大)▽田口未貴(九州大)▽小澤成美(九州産業大)▽石橋佑季(九州大)▽谷口あの(佐賀大)▽松尾賢史(熊本大)。



鹿島九州支店

休日想定しBCP訓練 緊急時の対応確認

鹿島九州支店(河野健吾常務執行役員支店長)は9日、休日の地震発生を想定したBCP(事業継続計画)訓練を実施した。長崎県を被災地に想定し、震災対策本部の設置、従業員の安否確認、被災地域との情報共有について訓練した。訓練は、支店ビルから徒歩圏内に居住し参集要員として

任命されている社員が発災後、速やかに支店ビルに集合し、震災対策本部を立ち上げた。メンバーで役割を決め、従業員や派遣社員の安否確認、建物被災モニター「q-NA VIGATOR」を使った支店ビルの健全性確認を行うとともに、「BCMプラットフォーム」の各システムを活用して、施工中工事や施工済物の被災状況の確認、支援要請内容の把握、得意先からの支援要請への対応確認を行った。長崎の現地対策本部(長崎

九州大学(箱崎)旧理社会科学系地・B・C・E・土壌汚染調査一般競争入690万円(環境ソリューション)5者(こが参加し、業務は、約2万5000円。履行期限

ダイセキ